6.平成7年度ニーズ調査における要望課題*と予算化の経過

要望課題名(機関名)	試験研究機関等の意見	予算化課題名
《畑作》		
1.そばの高単収栽培技術の確立(農政部畑作園芸科)	特に道央地帯における安定多収条件の解明と技術確立が必要。	今後も課題化に向けて検討
2.春播小麦の安定栽培技術の確立(斜網東部普及所)	新品種「春のあけぼの」を含め多収安定栽培法の確立が必要。 道産小麦品質向上試験(北見他)で開発を促進する。	道産小麦の品質向上試験(パートⅢ)栽培法改善による品質向上と安定多収(中央、上川)
3.春播小麦(固有用途を含めて)の耐穂発芽性、早生、多収新品種の開発(女満別町等)	上試験(北見、中央他)で強化開発を促進する。	道産小麦の品質向上試験(パートⅢ)春播小麦の育種促進(中央、北見)
4.葉緑素計による小麦の追肥時期、追肥量の判定法(旭川地区)	新品種「北見66号」、「春あけぼの」等についても、今後対応を検討する。	今後も課題化に向けて検討
5.大豆の成熟期を早めさらに収量・品質の向上が必要である。	当面耐冷性多収品種「十育220号」の定着を図りたい。	網走地方における小豆及び大豆の生育特性解析と安定多収栽培法(北見、十勝)
6.豆類のにお積みによる風味向上の要因解明(十勝支庁農務課等)	「小豆のピックアップ収穫技術確立試験」(H6-8)で一部対応する。 風味の評価法については今後検討が必要。	道産豆類の品質強化対策(十勝)
7.そばの収穫適期幅の延長、脱粒防止品種の育成 (雨竜西部普及所)	育成系統の地域適応性検討。	今後も課題化に向けて検討
8.ハトムギの寒冷地向け品種改良(栗沢町)	品種特性を調査し、今後課題化を検討。	今後も課題化に向けて検討
《園芸》		
1.切花ユリ類の品種特性と抑制栽培技術の確立(農政部畑作園芸課)	栽培面積、生産額等から見て、重要な品目であり、近年品種、栽培事項も背景のとおり急速に変化してきた品目なので、緊急に解決を要する課題である。	今後も課題化に向けて検討
2.花き電照栽培の切り花の品質に与える効果(ホクレン)	一部実施中のものもあるが、今後の栽培試験の中では、これらを含めて課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
3.りんごのわい化栽培における低樹高化技術の確立(農政部畑作園芸課)	一部実施中、緊急に解決を要する課題であり、課題化を検討する。	今後も課題化に向けて検討
4.かぼちゃに対する異常果(潤み果)発生要因の究明(南留萌普及所等)	道北地区の重要特産野菜の問題であり、その重要性は理解できる。 とりあえず予算措置を考慮しないで緊急対応する。現地の協力もお願いする。	今後も課題化に向けて検討
5.だいこん、にんじん等トンネル栽培品質向上対策の確立(函館地区普及所)	課題化は必要、課題内容について検討したい。	今後も課題化に向けて検討
6.ニーズ多様化に対応したヤマイモノ品目の拡大(十勝中部普及所等)	予備的調査を実施し、その後、課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
7.キャベツの機械化体系に対応した標準規格品生産技術の確立(十勝中部普及所等)	主要な課題であり、関係各場各部門と協議し、課題化を検討したい。	キャベツの機械化体系に対応した標準規格生産技術の確立(北見)
8.メロンの各品種に適した接ぎ木用台木の生育特性の確認(雨竜西部普及所)	台木のフザリウムバーティシウムに対する検定はメロンの新品種育成試験の中では対応可能であるが、台木の親和性等の検討は現体制では対応不可。	高品質病虫害抵抗性メロン品種の育成試験(中央)
9.花きのハウス栽培における液肥技術の確立 【ベット栽培】 【ベンチ栽培】 (石狩北部普及所)	スターチスについては検討中であるが、他品目についても順次課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
10.リンゴ栽培の省力化技術の開発 (南留萌地区普及所)	平成5年度にも要望を受けている。全道りんご生産地の共通の問題と認識している。わい化栽培法の第2段階の課題として必要と考え	今後も課題化に向けて検討

	る。	
《畜産》		
1.大量卵長期保存技術の開発試験(水産部魚政課)	遺伝資源の長期保存とその利用技術は進んでいるが、家禽の様な大型卵においては新しい発想の技術が必要とされている。やや小型卵の魚卵保存研究分野との共同開発によりお互いの分野で加速的な発展が期待できる。	今後も課題化に向けて検討
2.地域の特性にあった牧草の品種改良(計根別農協等)	放牧用品種については課題化したい。また家畜を通した検定及び栽培・利用法についても課題化したい。なお、高品質牧草としてアルファルファの栽培についても課題化したい。	土壌凍結地帯向け牧草の現地初期選抜(根釧) 高品質粗飼料の安定生産技術(新得、天北、根釧)
3.根釧地域における放牧草の品種改良と維持管理システム(根室生産連)	同上	土壌凍結地帯向け牧草の現地初期選抜(根釧)
4.サイレージ添加剤効果について(北根室普及所)	添加剤の検討も含め牛の嗜好性について、課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
《環境化学》		
1.主要花きに対する、微量要素基準の設定(北見地区普及所)	重要性は理解でき、生理障害対策として課題化に向け検討したい。	今後も課題化に向けて検討
2.グリーンアスパラガスF1品種の栽培法の確立(名寄地区普及所)	現在実施中の試験結果を待って対応する。	今後も課題化に向けて検討
3.アスパラガス多収技術の確立(南羊蹄普及所等)	新品種対応を含めて低収打開栽培法について課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
《農産化学》		
1.道外移出用果実(りんご・ぶどう・おうとう等)の保鮮技術の確立(農政部畑作園芸課)	ブドウ、オウトウについては試験例がなく、リンゴについてもハックナインの収穫時期と貯蔵中の褐変などの問題があり試験の余地がある。ただし、遠距離輸送実験の設定、包装容器・資材の開発などの課題がある。	今後も課題化に向けて検討
2.作物の経時的品質変化について(北海道食品産業協議会)	品質判定技術及び貯蔵法については引き続き試験を拡大する。	雪を利用した貯蔵庫における米及び豆類の高品質貯蔵試験(中央)
3.豆類の貯蔵に関する試験(北海道豆類振興会)	新規課題で対応したい。	豆類の加工適性向上試験③豆類の貯蔵に伴う品質変動解析試験(中央) 雪を利用した貯蔵庫における米及び豆類の高品質貯蔵試験(中央)
4.貯蔵豆類の蒸煮試験(北海道豆類振興会)	新規課題で対応したい。	豆類の加工適性向上試験③豆類の貯蔵に伴う品質変動解析試験(中央)
5.道産野菜の内部品質向上技術の開発(農政部畑作園芸課)	現在まで野菜については一部実施しているが、内部品質の評価基準の設定・評価技術の確立が前提である。	今後も課題化に向けて検討
6.メロンの成熟特性に対応した外観特性による収穫適期の判定基準(北海道原子力環境センター)	果実内の糖の推移から熟期判定が可能であるが、外観の画像解析又は非破壊判定が重要であり、栽培部門による課題化が必要。	今後も課題化に向けて検討
7.野菜栄養価(成分)問題(北桧山農協)	品目を拡大して高栄養価野菜生産について検討。標準食品成分表問題は要請。	野菜の機能性(三次機能)成分の実態調査(道南)
8.メロンの適期収穫のための外観による判定基準(共和町)	重要な課題であり、課題を含めて検討	今後も課題化に向けて検討
《病害虫》		
1.水稲葉鞘褐変病、褐変穂の対する経済的で高い防除法の確立(旭川地区等)	病原菌の生態、発生と気象との関係も明らかである。耕種的な対策が最も効果的と考えるので新資材試験を含めて再検討する。	栽培環境の改善による水稲の葉しょう褐変穂の防除対策試験(中央)
2.馬鈴しょ半身萎凋病の対策(南羊蹄普及所)	実態調査を予定している(H6年度)。	ジャガイモ半身萎ちょう病の発生実態解析と緊急防除対策試験(中央)

3.コナガの飛来・越冬に関するメカニズムの解明と発生予察プログラムの開発(十勝西部普及所)	害虫は個別圃場に対する発生・被害の予測が重要である。その意味では、フェロモントラップの利用技術の確立がまず必要であり、現状ではその方向について検討中である。機械をみて、研究内容を強化したい。	今後も課題化に向けて検討
4.転換畑地帯における地域特産的野菜の病害虫対策(上川専技室)	転換畑の野菜生産は、農家経済の重要な部分を担っている。地域における特産野菜の栽培実態と問題点を予め明らかにする必要がある。	今後も課題化に向けて検討
《農業機械》		
1.葉茎菜類の調製・選別機械の開発(ホクレン)	新たな機構の開発が必要であり、課題化を検討。	キャベツ調製装置の開発(中央)
2.馬鈴しょ収穫機(ポテトハーベスタ)の生食用向け機械の改良(中後志普及所)	課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
3.「べたがけ」栽培に対応した作業機械の開発(十勝東部普及所)	野菜生産安定のために今後取り組む必要がある。	被覆作業の機械化(十勝)
《経営》		
1.畑作における輪作の経営的な評価に関する研究(農政部畑作園芸科)	特に、緑肥休閑作目の経営経済的評価が必要である。	豆類等の高品質省力収穫技術と高収益畑輪作体系の確立(十勝)
2.畑地かんがい技術の経営経済的評価び畑地かんがいの導入による経営転換の可能性と地域農業の展開方向について(農政部農村計画課)	大部分はすでに取り組んでいるが畑地かんがいを踏まえた地域農業の展開方向に取り組むまでに至っていない。課題化する必要がある。ただし、技術部門との協力が必要である。	畑地かんがい技術の経営経済的評価(中央)
3.野菜関係施設の適性配置と規模決定のための検討手法の確立(農政部畑作園芸課)	具体的な品目を挙げての課題化要求があれば取り上げたい。	北海道稲作地帯における広域野菜産地の形成手順(中央)
4.濃厚飼料少給型酪農経営の可能性(放牧主体) (農政部酪農畜産課)	ガットウルグアイラウンド合意により、乳製品のすべては関税化の方向を辿っているので、低コスト生乳生産と糞尿の環境負荷評価という意味においても早急に取り組む必要がある。	草地型酪農地帯における低投入型経営の適正規模とその技術体系(根釧)
5.畑作経営における農業情報を活用した経営管理システムの開発(十勝支庁農務課)	酪農を対象に開発されたシステムを踏まえ、畑作経営および畑作地帯の農業情報処理の実態を検討の上、課題化をはかる。	今後も課題化に向けて検討
6.土地利用型酪農の検討(釧路北部普及所)	重要な課題であり、大規模経営に関しては「高度土地利用酪農低コスト生産技術」で対応し、持続型酪農については課題化を検討したい。	ゆとりある酪農経営をめざした放牧による低コスト生乳生産の体系(根釧、新得、天北)
7.草地依存型酪農経営体系(牧草給与を主体とした乳牛飼養法の普及とそれを可能とさせる草地の肥培管理法)の確立(計根別農協等)	重要な課題であり、大規模経営に関しては「高度土地利用酪農低コスト生産技術」で対応し、持続型酪農については課題化を検討したい。	草地型酪農地帯における低投入型経営の適正規模とその技術体系(根釧)
8.北海道における周年放牧による酪農経営の確立(十勝支庁農務課)	重要な課題であり、大規模経営に関しては「高度土地利用酪農低コスト生産技術」で対応し、持続型酪農については課題化を検討したい。	ゆとりある酪農経営をめざした放牧による低コスト生乳生産の体系(根釧、新得、天北)
9.緑肥作物の経営的評価(芽室町農協)	指摘のように緑肥の輪作上の評価が未確定であるため、労働とコスト面からでは限定的な評価になる。技術研究と連携し、課題化していく必要がある。	今後も課題化に向けて検討。
《農業土木》		
1.コンピュータ・シュミレーションによる農村景観創出手法の開発(農政部設計課)	農村環境景観については住民の関心が高く新しい研究分野であり、積極的に取り組みたい。	生態系に配慮した排水路の整備計画手法の開発(中央)

目次へ戻る